

地区の災害対応ルール：地区防災計画策定支援について

1. 地域の防災力に関する課題

- 災害が発生した場合に、行政だけに頼った支援（公助）はもはや不可能な状況？
 - ※東日本大震災では、役場自体が被災・町長を含めた町職員自身が死傷された自治体も。
 - つまり、**自分自身（自助）、隣近所の住民どおし（共助）**で助けあう体制を作らなければならなくなりました。
- 内閣府では、地区の中での災害時の対応をまとめた**地区防災計画**の作成を推奨しています。
 - ・でも、なにからはじめればいいのか？（まちあるき、体制づくり、訓練の実施？）
 - ・きまったことをどう文章や地図にまとめればいいのか？

その課題解決、**岩手県立大学**が、お手伝いします！！

2. 岩手県立大学が提供する地区防災計画策定支援について

①地区防災アドバイザーの派遣

東北地方の地区防災計画策定に携わってきた教員が、まちあるき企画やワークショップ、計画案の立案から運営支援・内容の見直しに至るまで、トータルに支援します！

②地区防災計画の内容の文章化・地図化のお手伝いをします

地区防災計画策定で最も時間・技術が必要なのは、地区としてきまった内容を文章化・地図化するプロセスです。岩手県立大学がこの作業をお手伝いします。

③地区防災計画の内容の検証として避難訓練をお手伝いをします

作った地区防災計画の検証に最も最適な場は避難訓練です。この避難訓練の企画・運営・振り返り等の支援も行い、計画の見直しにも協力します。

訓練支援事例：

地区防災のルールをまとめた避難訓練の案内ビラの作成

令和元年 薄磯区 津波避難訓練のお知らせ

日時：10月26日(土)午前8時00分～午前9時ごろまで
※去年より30分早いです！ 悪天候時は決行しますが、大雨・台風接近時は延期します。

東日本大震災や平成28年福島県沖の地震からの教訓を確認し、区民の防災意識を高めることを目的に、避難訓練を実施します。訓練を通じて、災害時の対応や避難の仕方を具体的に確認していきます。

当日は、「午前8時5分に三陸沖で地震（いわき市は震度6弱）し、30分後（午前8時35分）には津波が到達する」という想定で訓練を行います。

■午前8時5分になったら、

②「地震から5分以内に家を出て、地震から15分以内には避難完了」

③を目標に、皆さんがお住まいの地区ごとに、以下の避難行動をとってください。

■小塚、南作にいる場合	①玄関に『避難済み看板』をかけて、 ②近所どうして避難を呼びかけながら、 ③『豊間中学校』に避難してください。
■薄磯1・2丁目（高台）にいる場合	①玄関に『避難済み看板』をかけて、 ②近所どうして避難を呼びかけながら、 ③『薄磯区集会所』に集合してください。
■薄磯団地（公営住宅）の場合	①玄関に『避難済み看板』をかけて、 ②近所どうして避難を呼びかけながら、 ③『3階より上』もしくは『高台』に避難してください。（徒歩移動が難しい方は3階より上へ）
■多目的広場、海岸にいる場合	①まわりの人にも避難を呼びかけながら、 ②『高台』に避難してください。 ※防災緑地では津波が到達する可能性があります。

■今年から薄磯区に引越された皆様へ：
※薄磯区では、逃げ遅れている世帯を見つかりやすく、避難する際に、『避難済み看板』を玄関にかけてもらっています。白旗から玄関の見やすいところに保管しておいてください。
※この看板をお持ちでない方は、区長に連絡してください。

※以下は、全ての地区で共通です

- (1) 自動車で避難したい方は『高台』を目指してください。※県道15号線は、災害時、渋滞します！
※電気自動車（アウトランダーやリーフなど）をお持ちの方は、災害時には避難所への電源供給のご協力ください
※駐車は、高台の中央の道路以外をお願いします（※緊急車両が通過するため）
- (2) 避難が完了したら、隣組長・班長は、『避難本部』（薄磯区集会所）に待機中の区長へ避難状況を報告してください。
- (3) 8時40分頃から、薄磯区集会所で、『訓練の振り返り』を行います。こちらにも参加をお願いします。（約10分の予定です）

※訓練中に、高台の「中街つじ公園」、海岸の「多目的広場」上空で、防災用ドローンの試験飛行も行っています（観望自由、雨天中止）。

令和元年 薄磯区 津波避難訓練 避難場所および避難経路

薄磯地区

3階以上か、高台へ！

災害公営住宅

防災緑地

多目的広場・海岸

中央の道路には駐車しない！

豊間中学校

豊間小学校

南作

小塚

豊間中学校へ！

●ドローン飛行予定エリア

●自動車避難者用一時停車エリア（道路路肩）

- ・避難訓練を通じて、地域防災の内容を検証・修正
- ・地区レベルでは、訓練案内ビラは毎年全住民に配布される「地区防災計画」の広報誌です。

- ①ローカル防災ルール
- ②避難目標時間
- ③各地区での避難行動（要配慮者・観光客含む）
- ④自動車避難時の注意
- ⑤避難完了後の安否報告フロー等が記載されています。まずはここからはじめませんか？

■地区防災の取組事例 (1) 避難を呼びかける消防団・地区役員自身の安全確保のため、避難時には、『避難済みサイン』をかける

→地区住民全体の『避難時間の短縮』に貢献

■地区防災の取組事例 (2) 徒歩、自動車、車椅子等での『避難所要時間』の確認

→『避難目標時間』の参考に

■地区防災の取組事例 (3) 地区内外の『災害時の危険箇所』を確認

→『地区防災計画』の参考に

ご興味のある方は：
sugiyasu_k@iwate-pu.ac.jp (地域防災担当：杉安)へお問い合わせください。

地域の避難訓練、防災計画づくり、岩手県立大がお手伝いします！①

地震・津波・夜間・自動車避難等

を想定した避難訓練支援について

1. 津波避難をめぐる現状

■津波避難と自動車避難

津波からの避難の際には**原則徒歩**しかし東日本大震災では全国で約6割（※岩手県では4割）の方が自動車避難を選択 → 自動車避難者の数を抑えつつ、徒歩避難をしやすい環境の整備とともに、自動車避難者をどのように誘導、一時待機させるかも事前に検討が必要です。

■地震と津波は日中だけでなく、**夜間**にも発生

昭和三陸地震津波(深夜2時30分に発生)や、2022年トンガ沖火山噴火に伴う潮位変動（深夜0時15分 津波警報発令）、2022年福島県沖地震（23時36分発生）など、**夜間・深夜に避難**が伴うこともあります。

このような災害時の対応を事前に練習するために、**避難訓練**を行うことが重要です。

でも避難訓練を実施するには、

この他に、**避難場所・避難所**の選定、**帰宅困難者・観光客対応**、**感染症対策**、**地区住民への広報**等、**訓練の記録・検証**等、いろいろ考えたり、事前準備がたくさんあります。

その課題解決、岩手県立大学が、お手伝いします！！

2. 岩手県立大学が提供する避難訓練支援について

①避難訓練**アドバイザー**の派遣

東北地方の避難訓練監修・運営支援に携わってきた教員が、訓練内容の立案から当日の運営支援、訓練の振り返りに至るまで、**トータルに支援**します！

②避難訓練**ボランティア**学生の派遣

訓練の記録・写真撮影等、訓練活動を影から支える学生ボランティアを派遣します！
(※感染症の拡大状況に注意しつつの実施となり、感染拡大傾向の場合、中止となる場合があります。)

③訓練当日の各種**機材**の貸出・デモの実施

避難訓練運営にあると便利な「避難場所案内旗」、「スピーカーセット」、「非常用電源装置」、「防災用ドローン」等を持参、デモを行います！



訓練支援事例①: 観光客を交えた避難誘導訓練(徒歩)



訓練支援事例②: 訓練記録・総評コメント・改善点アドバイス等



訓練支援事例③: GPS活用による避難時間・避難経路の記録



訓練支援事例④: 自動車避難訓練の監修



訓練支援事例⑤: 避難訓練広報ビラの作成支援

令和元年 薄磯区 津波避難訓練のお知らせ
日時: 10月26日(土)午前8時00分～午前9時ごろまで
薄磯地区 避難訓練 避難場所および避難経路
災害公営住宅、防災緑地、多目的広場、小塚、豊間中学校、小塚、豊間中学校

訓練支援事例⑥: 夜間避難訓練の監修・運営支援



ご興味のある方は: sugiyasu_k@iwate-pu.ac.jp (地域防災担当: 杉安)へお問い合わせください。

東日本大震災から12年、
岩手・宮城内陸地震から15年、
昭和三陸地震から90年、

次の大災害から生き残るために

復興の“先”を考える

2023年4月

岩手県立大学は
「防災復興支援センター」
(仮称)
を設置します

災害復興支援センターから、
→ 防災復興支援センターへ

岩手県立大学では、2011年4月5日に岩手県立大学災害復興支援センターを設置し、東日本大震災等により被災した地域の復興を、教職員及び学生のボランティア活動並びに看護や福祉分野などの専門性を持つ教職員の派遣等を通じて支援してきました。

同センターの設置から11年、この間、岩手県では激甚化する風水害等の新たな災害を経験しつつ、地域のニーズは「東日本大震災からの復興支援」から、震災の教訓を踏まえた「次の大災害への備え」へと変化しつつあります。

これを受け、岩手県立大学は、東日本大震災から12年目、岩手・宮城内陸地震から15年目、昭和三陸地震から90年目を迎える2023年、災害復興支援センターを改組し、新たに「防災復興支援センター」を設置します。

防災復興支援センターでの新ミッション

岩手県立大学防災復興支援センターでは、これまでの被災地復興支援活動に加えて、次の大災害から生き残るため、地域の防災力向上に資する支援活動、調査研究活動、人材育成活動等に取り組みます。

▼新ミッション①【支援】：地域の防災力向上に資する支援活動

地域の災害対応の体制構築、地区防災活動・避難訓練支援、防災マップ作成支援等、地域の抱える防災活動上の課題解決に尽力します。

▼新ミッション②【研究】：次の大災害から生き残るための調査研究活動

地域防災の先進事例、震災ツーリズム、伝承活動、災害発生後のくらしの課題、復興に至るまでの教訓と課題、それらの解決策等を調査研究し、その共有・発信を行うデータベース構築に取り組みます。

▼新ミッション③【人材】：次の大災害から生き残る力を備えた人材育成活動

所属学生の約半数が岩手県内に就職する地域に根ざした公立大学の特性を生かし、自らと家族が災害から生き残る『自助』の力、地域住民の一員として、コミュニティとの協働のもと、災害から生き残る『共助』の力を有する人材育成・輩出に取り組みます。

これらを実現するべく、防災・復興に関する研究・教育・人材育成プログラムの整備を行い、地域防災の担い手として防災士資格の取得、災害時の活動支援となるドローンパイロットチーム、災害時ボランティアの育成、災害看護研修会の実施等を行います。

